

令和2年度 第4号 10月20日発行

## 「社会に開かれた教育課程」を目指して

9月11日(金)と9月25日(金)の1学年葵ゼミでは、会津大学短期大学の先生や会津若松市役所の方々、地域の専門家を講師として本校にお招きし、各領域に分かれての出前講座を行いました。それぞれの講師からは、地域における課題やそれに対する取組などを資料や画像をもとに丁寧にわかりやすくお話しいただきました。お忙しいところお越しいただいた皆様に感謝申し上げます。



出前講座の講師と受講する生徒たち

2学年では、生徒たちが外部組織訪問として校外へ出かけ、自らの足で各施設や事業所等に出向き、インタビューや調査などを行っています。訪問取材等でご対応いただきました皆様に感謝申し上げます。フィールドワークから戻ってきた生徒の目からは、多くのものを獲得し、充実した訪問であったことがうかがえました。生徒たちは、地域の大人(専門家)と接する中で、社会とのつながりを感じながら、地域の課題を自分のものと考えようになったと思います。

今回の学習指導要領改訂の大きなテーマのひとつは、「社会に開かれた教育課程」です。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有していくこと

が、これからの教育課程の理念として掲げられています。学校においては、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働することによりその実現を図っていくことが求められています。

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現を中心にして、3つの柱である「何ができるようになるか」と、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目はどうあるべきかという「何を学ぶか」、それらを「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの視点により、学習過程の改善という方向性で改訂がなされています。

それぞれの学校や地域にはそれぞれに特色があり、生徒の学習を学校の中だけで閉じず、外部とのつながりで考えていくことが大切であるとされています。葵高校では、地域と学校が教育内容や意義を共有し同じ価値観を持つことや、生徒の学びの実現の視点を持つことを大切にしています。学校と地域が、教育内容を共有し、同じ価値観であることを示すことで、生徒の中にも学びに対する価値観が芽生え、学んだことを人生や社会に生かそうとするという大きな学びになると考えているからです。

#### 9月11日 出前講座一覧

- 『会津の伝統文化の魅力と課題』 (関美工堂・関昌邦氏)
- 『「経済学×教育」で幸せな社会をつくる』 (東京大学大学院経済学研究科・石幡祐輔氏)
- 『会津はむかし海の中だった～自分たちの足元からの防災～』 (防災士・鈴木里美氏)
- 『スタートアップの思考法～言われたことをやっていると世界は変えられない～』 (Eyes,JAPAN・山寺純氏)
- 『会津地域医療の現状と課題』 (会津中央病院・山田忠一氏)
- 『家庭を巡る諸課題―子どもの貧困と教育問題の基礎を学ぶ―』 (会津短大・鈴木勲先生)
- 『食と健康』 (会津短大・真鍋久先生)
- 『まちを再生する99のアイデア―建築・デザイナー―』 (会津短大・柴崎恭秀先生)
- 『楽しい外国語学習のコツ』 (会津短大・石光真先生)
- 『先進的中山間地域の活性化モデル』 (会津短大・森文雄先生)
- 『体組織(筋肉量)について』 (会津短大・渡部琢也先生)

#### 9月25日 出前講座一覧

- 『会津伝統工芸の10年後を考えよう』 (三義漆器店・曾根佳弘氏)
- 『エッジで戦う～魔法と区別が付かない技術の作り方～』 (Eyes,JAPAN・山寺純氏)
- 『児童・生徒の学力を考える』 (鈴木睦治校長)
- 『自然エネルギーの持つ可能性―「豊かな会津」―』 (会津電力・佐藤彌右衛門氏)
- 『ごみ減量とリサイクル』 (会津若松市役所廃棄物対策課・遠藤裕次氏・佐藤一臣氏)
- 『誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて―地域福祉の推進―』 (会津若松市役所地域福祉課・遠藤隆憲氏)
- 『魅力ある観光地づくり』 (会津若松市役所観光課・先崎真理氏)
- 『中心市街地の活性化について―まちなかの賑わいづくりへの取組―』 (会津若松市役所商工課・薄恒平氏)
- 『メンタルトレーニングについて』 (相原隆幸先生)
- 『会津から考える理想の地域医療・看護』 (会津中央病院・五十嵐真氏)